

○ 研究主題と研究紀要(No.203～212)

- かかわり合う力をはぐくむ指導の在り方(No.203・204) 平成 20・21 年度
～家庭・地域との連携を通して～
- 確かな学力をはぐくむ学習指導の研究(No.204・205) 平成 21・22 年度
～算数的活動の充実を通して～
- 望ましい人間関係をはぐくむ指導の在り方(No.205・206) 平成 22・23 年度
～認め合い、協力し合う集団活動を通して～
- 思考力・判断力・表現力等をはぐくむための学習活動の充実(No.206・207) 平成 23・24 年度
～各教科における学習活動の工夫を通して～
- 豊かな心を育む指導の在り方(No.207・208) 平成 24・25 年度
～道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の充実を通して～
- 「よりよく問題を解決する力」を育む研究(No.208・209) 平成 25・26 年度
～基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動の充実を通して～
- 道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導の在り方(No.209・210) 平成 26・27 年度
～指導と評価の一体化を通して～
- 進んで学習に取り組む力を育む研究(No.210・211) 平成 27・28 年度
～国語科における協同的な学習の充実を通して～
～学びの価値を実感する協同的な学習の充実を通して～
- 自主的・実践的な態度を育むための特別活動の在り方(No.211・212) 平成 28・29 年度
～学級活動における自己指導能力を高めるための指導の工夫～
～集団思考を生かし自己決定する学級活動の工夫～
- 多面的・多角的に考える力を育む研究(No.212) 平成 29 年度
～対話的な学びにおける思考ツールの活用を通して～

○ 十勝教育研究所沿革

昭和24年	2月	十勝教育研究所設立準備委員会設置
昭和26年	6月	研究所設立総会開催, 十勝教育研究所並びに維持委員会を発足
	7月	十勝教育会館(帯広市東6南10)が完成し, その一室に研究所を置く
昭和32年	12月	「研究所だより」創刊
昭和35年	3月	十勝教育研究所運営委員会設置
昭和37年	7月	「研究所だより」を改編し, 広報誌「十勝教育研究」として刊行
	8月	「十勝管内教育関係職員録」を編集刊行
昭和42年	5月	新築された十勝教職員研修センター(幕別町依田)へ移転
昭和50年	4月	十勝管内町村教育研究所との「共同研究」を組織
昭和51年	8月	十勝管内教育研究所連絡協議会設立
昭和62年	4月	「共同研究」に帯広市教育研究所が加わり管内全教育研究所の共同研究を開始
平成 7年	3月	新築された十勝教育研修センター(幕別町札内暁町)へ移転
平成 8年	10月	北海道教育研究所連盟研究発表大会十勝大会開催
平成 9年	2月	十勝教育研究所研究発表大会を継続事業として開始
平成10年	9月	道東地区教育研究所所員研修会(十勝会場)開催
平成12年	11月	全国教育研究所連盟「教育課題等研究協議会」大分大会で提言
平成13年	11月	全国教育研究所連盟「教育課題等研究協議会」北海道十勝大会開催
平成14年	8月	道東地区教育研究所所員研修会(十勝会場)開催
平成18年	8月	道東地区教育研究所所員研修会(十勝会場)開催
平成20年	4月	専任所長の配置
平成21年	9月	道東地区教育研究所所員研修会(十勝会場)開催
平成22年	9月	北海道教育研究所連盟研究発表大会十勝大会開催
平成26年	8月	道東地区教育研究所所員研修会(十勝会場)開催
平成27年	9月	北海道教育委員が教育状況調査で視察

○ 所在地

十勝教育研究所

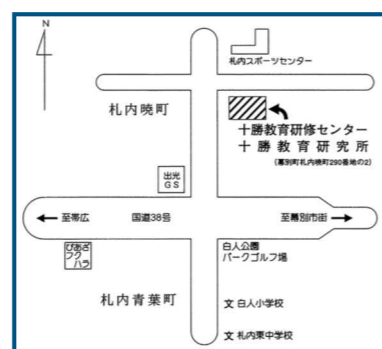
〒089-0531

北海道中川郡幕別町札内暁町 290 番地の 2

TEL 0155-56-2331 FAX 56-4260

Email staff@tokyoken.net

URL http://www.tokyoken.net



十勝教育研究所



2018 要覧

○ 運営の基本方針

十勝教育研究所が十勝管内教育委員会連絡協議会によって設置されている公的な研究機関であるという性格に立ち, 各市町村教育委員会はもとより, 十勝教育局並びに教育関係機関, 十勝教育研修センターとの密接な連携を図り, その中心的な業務である調査研究, 研修活動, 資料提供等を通して, 十勝管内の教育の充実, 発展に尽くすことを基本方針とする。

○ 設 置

十勝管内教育委員会連絡協議会規約(抜粋)
(教育研究所の設置・運営)

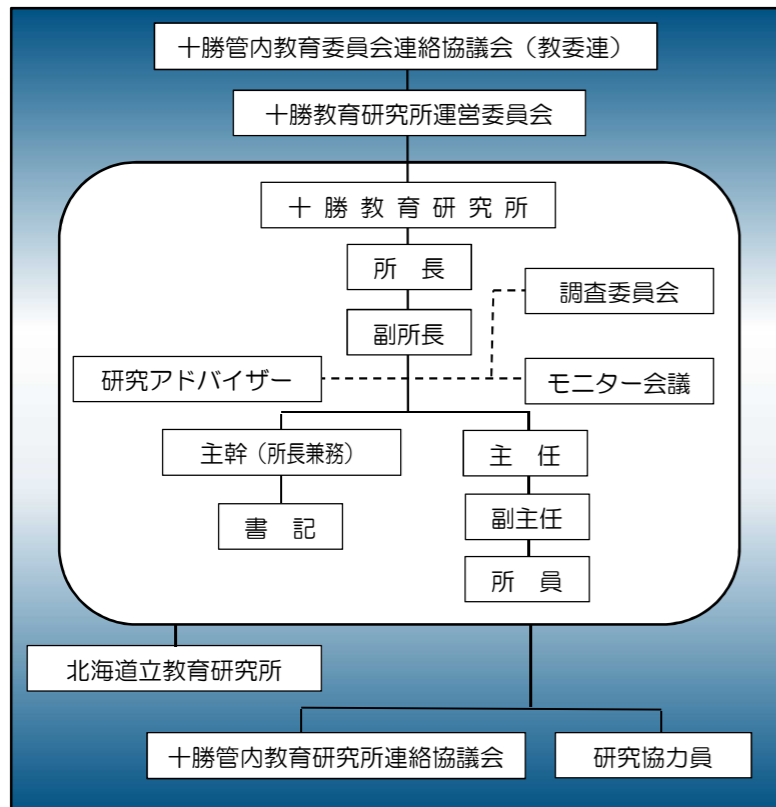
第14条 十勝管内の教育振興に寄与するため十勝教育研究所(以下「教育研究所」という。)を設置する。

2 教育研究所を運営するため十勝教育研究所運営委員会(以下「運営委員会」という。)をおく。

3 前2項の設置, 運営について必要な事項は別に定める。

○ 機構と組織

(1) 機構



十勝教育研究所のマークの由来
 このマークは、昭和40年に当時の土門修所員と廣田良治所員により考案されました。外線が十勝の形を表し、アクセントを付けるために海岸線を太くしました。また、当時の十勝は「豆王国」と言われたことから、十勝の地域的な産業のシンボルとして、双葉のマークを入れました。双葉の大小については、見る人の判断（例えば、大は教師、小は生まれる子どもの考え）に任せようと考えました。「○」は太陽を表し、十勝晴れをイメージできるようにしました。

(2) 十勝教育研究所運営委員会

役員	氏名	町村名
委員長	菅野 勇次	幕別町教育長
副委員長	久門 好行	浦幌町教育長
委員	西村 公弘	学識経験者
委員	伊藤 登	清水町教育長
委員	武田 孝憲	芽室町教育長
委員	宮原 達史	音更町教育長
委員	藤代 和昭	足寄町教育長
委員	高橋 康伸	十勝教育研究所長

○ 職員一覧

職名	氏名	所属	業務分担
所長	高橋 康伸	専任	所務の統轄、道研連・全教連との連携、各教育機関・団体の対応
副所長	清水 弘	幕別町 途別小	調査研究・研修事業の総轄、業務推進に関する指導・助言、教育研究相談
主幹	当分の間所長が兼務する		庶務の掌理、運営委員会・各種会議の開催、教育関係職員録の編集
主任	佐藤 真啓	音更町 木野東小	共同研究、研究発表大会等、所内会議、業務計画会議、道東地区兼管内所員研修会
副主任	松本 健二	芽室町 芽室中	共同研究「多面的・多角的に考える力を育む研究」、研究発表大会、広報誌、教育研究相談
所員	角田 裕司	幕別町 幕別中	協力員研究「子どもたちが自己実現を図ろうとする特別活動の在り方」、教育講演会、道研連共同研究推進委員
所員	金子 信隆	幕別町 白人小	共同研究「多面的・多角的に考える力を育む研究」、広報誌、ミニ道研、十勝の子ども学力、ウェブサイトの運営
所員	西村 弦	音更町 下音更小	協力員研究「子どもたちが自己実現を図ろうとする特別活動の在り方」、学習指導資料、広報誌、カリキュラム支援センター
書記	清水 悦子	専任	庶務、会計、参考資料の管理

○ 研究機関としての研究

十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究

管内19市町村の教育研究所と十勝教育研究所が一体となって、授業実践を通じた研究を進めます。

多面的・多角的に考える力を育む研究（2/2年次） ～対話的な学びにおける思考を深める学習過程の工夫を通して～

1年次の研究では、対話的な学びにおいて思考ツールを活用することで、子どもたちが主体的に対話し、多様な観点から考察したり、考えを深めたりする姿が見られた。2年次は、思考スキルを明確にした学習過程や目指す思考に応じた手立てを具体化することで、子どもの思考の深まりを目指した実践的な研究を推進する。

十勝教育研究所協力員研究

管内の小中学校各1校の協力を得て、協力員2名を委嘱し、授業実践を通じた研究を進めます。

子どもたちが自己実現を図ろうとする特別活動の在り方（1/2年次） ～見通しと振り返りをもった活動を通して意思決定できる学級活動～

全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果等においても、特別活動のよりよい実践と学力に相関があることが示唆されている。また、当研究所の2年間にわたる特別活動に視点を当てた研究でも自主的・実践的な態度を育むことに成果を挙げてきている。今年度は更に発展させ、一人一人のキャリア形成と自己実現を特質とする学級活動(3)を中心として実践的に研究する。

○ 講演会・研修会の開催

ミニ道研（7月3日・31日：十勝教育局）

北海道立教育研究所と連携し、十勝教育研修センターの講座として7月3日に「校内研修」と「学級経営」、31日に「カリキュラム・マネジメント」と「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の内容で、道研と道内他地域をスクールネットで結んだワークショップ型遠隔研修を開催します。

道東地区教育研究所所員研修会兼十勝管内教育研究所所員研修会（8月23日・24日）

今年度は道東地区教育研究所所員研修会と勝管内教育研究所所員研修会を兼ねて開催し、各教育研究所の今日的な課題と役割を明らかにし、相互の研究成果の交流を通して各研究所員の資質向上を図ります。

教育講演会（8月23日：幕別町百年記念ホール）

慶応義塾大学教授の今井むつみ氏を講師に招き、教職員を対象に「思考力を育む学びー認知科学の視点から考える」を演題に、授業づくりを主題とした講演会を開催します。

十勝教育研究所研究発表大会（2月5日：十勝教育研修センター）

今年度、調査研究した成果等を管内の小中学校に広く提供するために、研究発表大会を開催します。

○ 関係機関との連携

北海道教育研究所連盟第16次共同研究（2/3年次）

管内・道内の各教育研究所と連携した研究を推進し、必要な情報を収集して管内の教育機関に広く提供します。

全教連、道研連、道東・管内教育研究所連絡協議会との連携

管内を代表する加盟研究所として、連携を深めるとともに、必要な情報を収集して、管内の教育機関に広く提供します。

○ 教育相談・資料の提供

教育研究相談

校内研究の進め方や個人研究の相談、資料の提供等に応じます。

学習指導資料「十勝の子ども学力」

CRT検査による子どもの学力を観点別・領域別に分析・考察し、学習指導を改善・充実するための基礎的な資料として提供します。

広報誌「十勝教育研究」329号～331号

各学校や個人の取組、各教育研究所や研究実践校の紹介など管内の教育実践や今日的な教育課程等の情報を広くお伝えします。

カリキュラム支援センター・ウェブサイト

各種教育用図書や各学校、研究所からいただいた研究紀要や社会科副読本などを、授業づくりの資料や教育情報として提供します。

研究紀要 No.213・ダイジェスト版

今年度、調査研究した成果等を研究紀要及びダイジェスト版として提供します。

教育関係職員録

市町村教育委員会と連携して教育関係職員録を発刊します。



【昨年度の主な刊行物】